科学館運営理念及び運営方針に基づく評価項目

福岡市科学館では、運営理念「人が育ち、未来をデザインしていく科学館」のもとに6項目の市民との「約束」（「運営方針」）を定めており、それぞれに指標を設定している。これらの達成状況について事業者の各種報告書や実地調査、ヒアリングをもとに評価を行った。

【評価の区分】

A	優良：目標を超える成果を挙げている。内容が特に優れている。
B	適正：計画に即して目標を達成している。内容が適正である。
C	要改善：目標が達成できていない点がある。もしくは内容の改善が必要である。

運営方針	活動計画	計画の構成	市評価	市総評
1	科学を担う人やクリエイターなどと市民とが交流することによって、新しいサイエンスコミュニケーションのあり方を提案していきます	1 福岡市科学館や福岡などで活躍するサイエンスコミュニケーターを養成します 2 人と人（スタッフを含む）の交流の機会を設定していきます 3 九州大学を始めとする研究機関と連携を強め、人の育ちにつながる新しい教育プログラムなどを開発・提供します 4 研究者やクリエイターに出会える場のあり方を考え、このような場づくりに取り組みます 5 若手クリエイターの創造活動を活性化させる事業を行います 6 科学、音楽、アートなど様々な分野のスペシャリストとのコラボレーションや市民の参画により、独自のイベント・番組を企画・実施します	A	キッズクルーによる科学館紹介動画の制作や科学者やアーティストを講師としたワークショップの実施など、新たな取組みを積極的に展開した。これにより、市民が科学に親しみ、科学者等と交流できる多様な機会を創出し、新たなサイエンスコミュニケーションの推進につなげることができた。
2	幼児から高齢者までに対応する展示とプログラムを充実することによって、すべての人が科学を楽しみ、創造するよろこびがある科学館をつくります	1 各事業ごとに科学者や利用者の交流の質を上げたプログラムを企画・実施します 2 広く多くの人が科学に興味を持てるように、バランスのとれた展示を企画し実施していきます 3 市民参加を含む双方向性のある中高校生・大人向け企画を充実していきます 4 幼児から大人まで幅広い年代が科学の関心を深めることができるプログラムにとりくみます 5 基本展示室では、福岡市科学館独自のものを含む魅力ある展示アイテムへ更新します 6 創造までを目的としたプログラムや、応用力を養成するプログラムも開発・実施します	A	乳幼児親子向けの特別企画展や中学生が企画するサイエンスカフェ、大人向けのトークショーなど、多彩な取組みをバランス良く実施した。これにより、子どもから大人まで幅広い世代に科学に触れ、楽しみながら学ぶ機会を提供し、科学への関心を深めるとともに、誰もが科学の楽しさや創造するよろこびを感じられる科学館づくりに寄与した。

運営方針	活動計画	計画の構成	市評価	市総評
3	子どもたちの好奇心・疑問・考える力・創造性が育つ機会を提供することによって、一人ひとりの科学する力が伸びることに寄り添います	1 表彰などのインセンティブを用いながら、科学への受け身的態度から主体性を持った関心を引き出すような取り組みを進めます 2 ひとりひとりの好奇心に対応していくように、子ども・市民の参画活動に積極的に取り組みます 3 話題性のある科学情報や最新の科学情報、季節にまつわる科学情報を取得し、来場者の関心を深めるよう工夫した発信を行います 4 多様な科学の事象に知的好奇心を持ち、自らが探究することを充実させるプログラムを実施します 5 宇宙や天文に関する最新の情報や話題を、来場者の関心を深める手法で企画・実施します	A	中学生参画事業「ジュニアクルー」の新規実施や、未就学児から小学生を対象としたフィールドワークの充実など、子どもたちの好奇心や探究心を育む取組みを継続的に実施した。また、話題性のある科学情報をテーマとしたサイエンスカフェの開催や、宇宙・天文分野の最新情報を踏まえたプラネタリウム番組の制作・上映を通じて、多様な学びの機会を提供し、一人ひとりの「科学する力」を養うことに寄与した。
4	多様な市民、科学者、教員、保護者などと科学の協働プログラムを開発することによって、子どもたちが社会のなかで成長できる環境づくりに貢献します	1 未利用者との新たな関係づくりにアプローチします 2 モデル校と科学のイベント・プログラムを協働で実施しながら、教育現場と連携を強化し、科学の協働プログラム開発につなげます 3 ユニバーサルミュージアムを目指した取り組みを進めていきます 4 科学館事業等で習得した知識やスキルを活かす事業を推進します 5 市民（学生やサポーターを含む）のアイデアを取り入れた福岡市科学館独自のイベント、プログラムを実施します	A	学校や研究機関等との連携事業を新たに開拓するとともに、「かがく夏まつり」では参加校数が増加するなど、多様な主体との連携強化を図った。また、企画展示においては他団体と連携し、視覚障がい者も体験可能な企画展を開催するなど、ユニバーサルミュージアムの取組みを推進した。こうした多様な主体との協働により、子どもたちが様々な人々や価値観と出会いながら学ぶ機会を創出し、社会の中で成長できる環境づくりに貢献した。

運営方針	活動計画	計画の構成		市評価	市総評
5	福岡の人、モノ、コトなど、様々な資源を活用することによって、市民が科学的な視野で地域とその未来をデザインし、発信する活動を支援します	1	九州大学を始めとする研究機関の研究者や有識者と共に地域の資源を活用したプログラムで、参加者と共に未来の福岡を考え、社会をデザインしていくことを実施します	A	大学や行政等と連携した主催事業の実施、研究機関主催イベントへのブース出展など、多様な主体との連携を通じて市民が科学に触れる機会を創出した。こうした取組みにより、市民の科学的な視野を広げるとともに、地域とその未来について考え、主体的に発信する活動を支援することに寄与した。
		2	さまざまな科学技術や地域資源の情報発信・活用等を行い、地域文化の魅力度を促進します		
		3	科学館連携ネットワークやその他個別の連携・協働を、面の広がりとして構築・推進します		
		4	地域や産業の活性化、教育や福祉分野への支援活動を充実させることで広く産業界や地域の人々への貢献を行います		
		5	市民参加の活動や科学館プログラムの成果を人々の成長の記録としてアーカイブ化します		
6	利用者との対話・交流を進めることによって、施設や事業の改善に努め、日々進化する科学館を目指します	1	独自の外部評価委員会による事業評価を行い、改善を進めます	B	未利用者層を対象としたWebアンケートを実施し、その分析結果を特別展の広報戦略に活用した。また、運営サポーターとの意見交換の機会を拡充するなど、多様な意見の収集に努めた。今後も、得られた意見や調査結果を活用し、さらなる業務改善や新たな事業展開につなげることで、日々進化する科学館づくりを期待する。
		2	福岡市科学館の運営方針を検討するサイエンスコミュニケーション開発会議の円滑な運用に努め、プロジェクト分科会で有識者意見を取りまとめます		
		3	多くのリピーターを獲得していくため、来館者、運営サポーターと科学館スタッフからの意見聴取を行い、意見・要望には真摯に対応し、共に科学館を創っていくという参画意識を醸成していきます		
		4	個別ヒアリングも含めた利用者アンケートを作成し、アンケートやモニターの結果から真の意見・要望の掘り起こし、丁寧な対応で「科学館ファン」に繋げます		
		5	専門知識習得やよりよい来館者対応のため、スタッフ・運営サポーターに対する研修を定期的に行います		
		6	半年に1度面談を行い、スタッフの成長につなげ、職場環境の改善を図ります		